

# 記入例

※様式は富山県介護支援専門員協会ホームページからダウンロードしてください。

受講番号

00001

氏名

立山花子

## ② 事例概要

利用者	年齢	80代	性別	女	日常生活自立度	A2	認知症高齢者の自立度	I
主訴	調理や買い物は自分で続けていきたいが、最近体調に波があり一人暮らしに不安がある。病気も進んでいると聞いているので、今後の健康について相談したい。子供たちは仕事があるので迷惑をかけたくない。最期までこの家で過ごしたい。							
生活歴	結婚前は事務職、22歳で結婚し、以後は専業主婦として家事と育児に専念。夫は公務員として働き、定年後は夫婦で旅行や庭仕事を楽しんでいた。10年前に夫が死去してからは庭で花を育てることを生きがいとしていた。子供は県外で、時々電話で様子を伺うくらい。市内に夫の妹が住み、時々訪問している。							
家族構成	独居。夫は10年前に他界。子供は2人、県外に在住。							
既往・現病歴	H29年右乳がん（切除）、H30年右・左肺がん、R2年左肺がん再発 R3年7月めまいによる転倒で左上肢・腰臀部打撲で入院 腰部脊柱管狭窄症、両変形性膝関節症、高血圧症、狭心症、メニエール病							
認定情報 利用サービス	要介護2 訪問介護（週3回）、外来リハビリテーション（週2回）、配食（週4回）							
経済・他情報	遺族共済年金、国民年金（月15万円程度）、預貯金あり							
相談者（担当ケアマネジャー）が悩んでいる、または気付いていないと思われる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア移行期で出来ないことが増えているのだが、どのような支援に繋いでいけばいいのか、タイミングや方法に迷いがある。</li> <li>・利用者の希望で総合病院が主治医だが、今後の予後や治療方針を考えると、訪問診療を検討する時期がくると思われる。利用者にとどのように説明し納得していただけるか自信がない。</li> <li>・家族の関わりや今後の緊急対応等、どのようにするか整理出来ない。</li> </ul>							
スーパービジョンの視点（どのように支援すれば相談者が気付くか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャー一人で抱え込まず、利用者・家族・各事業所の役割が明確になるよう話し合いの機会を設ける。</li> <li>・病状の進行に伴い、一層機能低下が進むと思われるが、生活の質を保つためにできる範囲で本人の役割を考える。</li> <li>・医療職との情報共有の仕方や場の作り方を提案する。</li> </ul>							